保管用

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

沖縄県知事公室広報交流課

平成26年度

海邦養秀ネットワーク構築事業

報告書

ボリビアの「家族」に会いに行こう！

事業委託：(特活)沖縄ＮＧＯセンター(Okinawa NGO Center)

はじめに

ハイサイ、グスーヨーチューガナビラ！

20世紀初頭、ウチナーンチュの先人達は、海外雄飛の機運の下、1899年のハワイ移民をはじまりに、世界各地へ新天地を求めて、海を渡りました。

先人達は、自然や習慣の異なる慣れない土地での労働や、第二次世界大戦など大変な困難に遭いながらも、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーを守りつつ乗り越えてきました。今日では世界各地に約40万人の県系人がいるといわれ、各界各層で活躍しています。

現代においては、社会・経済のグローバル化が進み、私たちの生活は、国際社会と深く関わるようになりました。これからの社会を担う人材として国際的な視点から物事を考え、国を超えて交流ができる人材が求められています。

沖縄県の策定する「沖縄21世紀ビジョン」では「世界に開かれた交流と共生の島」を掲げ、世界中で活躍するウチナーンチュとのネットワーク強化に取り組んでおります。

「海邦養秀ネットワーク構築事業」は、次世代を担う若者達のウチナーネットワーク構築と国際的な人材育成の一環として、海外沖縄県人会と協働して実施している事業です。

沖縄県内の15歳から22歳までの若者を海外沖縄県人会へホームステイ派遣し、現地の家庭・社会での体験をとおして、海外県系人の雄飛の精神や、国際感覚を学ぶとともに、海外の同世代のウチナーンチュとの友情を育むことで、将来にわたってウチナーネットワークを発展させていくことを目的としています。

2006年の「第4回世界のウチナーンチュ大会」における海外県人会・民間大使会議の提案を契機にスタートし、これまでに5か国の11県人会へ、79名の若者を派遣しました。

2014年は、コロニアオキナワ入植60周年を迎えるボリビア多民族国、ボリビア沖縄県人会へ高校生5名、大学生4名の計9名を派遣しました。ボリビアへの移民は、琉球政府による計画移民として1952年にスタートしました。当時の入植者は、熱帯雨林の森を切り開き、うるま病や水害、干ばつなど多くの困難を乗り越えて、近年では、「小麦の首都」と呼ばれるほどの穀倉地帯に育て上げ、ボリビアの産業にも大きく貢献しています。

滞在期間中には、豊年祭や、入植60周年記念式典などが開催され、ボリビアのみならず、北南米各国から訪れたウチナーンチュや、60年以上前に開拓精神をもって海を渡った移民1世の方々と交流することができました。

沖縄では見ることができない広大な大地が広がる「もう一つのオキナワ」での生活や、かの地で脈々とウチナー文化を引継ぐ県系人との触れあいは、参加者にとって、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーや、国際交流について深く考えるよい契機になったと思います。

とくに今回のホームステイでは、各プログラムを現地の青年と一緒になって取り組むことができ、沖縄と、現地（ボリビア）の青年同士の間に深い友情を育むことができたと感じています。

今回の海邦養秀ネットワーク構築事業 in ボリビアに参加した、沖縄とボリビアの若者達には、互いに築いた絆を強固なものとし、共に切磋琢磨して世界に開かれたウチナーンチュの未来を創造する原動力となってもらいたいと思います。

結びに、ボリビア沖縄県人会、日本ボリビア協会オキナワ支部、サンタクルス市沖縄県人会、各ホストファミリーの皆さまをはじめ、本プログラムに御協力いただいた沖縄・ボリビアの関係者の皆さまには、参加者を温かく迎えて下さり、沖縄とボリビアを結ぶ若者達に貴重な体験を与えていただいたことに、感謝申し上げ、御挨拶といたします。

平成27年2月

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

会長　曽根　淳

（沖縄県知事公室秘書広報交流統括監）

目　次

・はじめに
・参加者
・事業のスケジュール
・ホームステイツアー日程
・現地活動日誌
・主な活動について
・ホームステイ感想
・参加者アンケート（派遣前）
・参加者アンケート（派遣後）
・編集後記

コロニア・オキナワの入り口にて

参　加　者

【出　発　式】

下地　裕(引率者：沖縄県　広報交流課)、今藤　詩音(沖縄キリスト教学院大学4年生)伊波　璃王(中部農林高校3年生)、川満　旬(琉球大学4年生)、小林　純平(琉球大学2年生)、玉城　幸太(中部商業高校3年生)、津覇　璃乃亜(向陽高校2年生)、比嘉　美咲(向陽高校2年生)、田本　彩華(琉球大学4年生)、高里　夢子(豊見城高校3年生)、眞壁　由香(引率者:沖縄NGOセンター)

【第1回事前研修】

【報告会・懇親会】

事業のスケジュール

日 程	内 容	場所・その他
4月28日(月)	参加者募集告知開始	
5月17日(土)	参加者募集説明会	
6月 2日(月)	参加者応募受付応募締切	
6月12日(木)	面接	沖縄県庁
6月17日(火)	参加者決定	沖縄県庁

派遣までの日程確認、参加者同士がうちとけ、目標・目的を高めるため、以下の研修を行った	
6月28日(土) 13:00～17:00	**第1回オリエンテーション** 内 容:保護者説明会、事業概要・日程について(体調管理について、昨年の事例紹介等)、旅行社からの説明(旅券発行・航空券・保険契約他)コロニアオキナワについて知る、「もうひとつのオキナワ」上映、WYUA のボリビア企画について説明宿題:①移民について調べる。②現地で知りたい事を考える。③現在の沖縄からボリビアに伝えたいことを考える。
7月12日(土) 10:00～17:00	**第2回オリエンテーション** 内 容:移民学習発表、語学研修、山城 興太さん(ボリビア日系人・元県費留学生・現在沖縄在住)の話を聞く、WYUA平良 麻乃さんの話を聞く(南米県人会訪問体験など)、島唄カラオケ大会について、発表準備(沖縄からボリビアに『伝えたいこと』)
8月 2日(土) 13:00～17:00	**第3回オリエンテーション** 発表準備「伝えたい沖縄」プレゼンテーション、津嘉山 エリカさん(ボリビア日系人元北谷町研修生・現在沖縄在住・WYUA 副代表)の話を聞く、元 JICA 青年ボランティア(上江洲志帆さん、仲地真理さん)の話を聞く、活動日誌作成、スケジュール、持ち物等最終確認、ホームスティの心得、ボリビアでの注意事項

8月6日(水)～8月22日(金) **ホームステイツアー**(次頁に詳細)

9月27日(土) 10:00～17:00	**報告会** 10:00～13:00 最終準備 13:00～16:00 参加者による成果報告会、質疑応答、感想 16:00～17:00 交流会

ホームステイツアー日程

1日目:8月6日(水)
9:30 那覇空港集合
10:00 出発式
11:00 那覇発 13:35 羽田空港着
羽田⇒成田 移動
ホテル日航成田チェックイン

2日目:8月7日(木)
9:00 集合・チェックアウト
15:03 成田発 13:59 アトランタ着
20:04 アトランタ発

3日目:8月8日(金)
11:05 サンパウロ発 13:10サンタクルス着
移住地へ移動
文化会館にて歓迎夕食会
各ホームステイ先へ

4日目:8月9日(土)
歴史資料館 見学
昼食(熱田食堂)
島唄カラオケ大会準備
島唄カラオケ大会参加

5日目:8月10日(日)
WYUA歓迎交流会

6日目:8月11日(月)
CAICO(沖縄農牧総合共同組合) 訪問・見学
昼食(CAICO食堂)
第一日ボ学校 見学・交流
釣り大会
釣りクラブにて夕食会

7日目:8月12日(火)
SHURI 農場 視察
昼食(比嘉食堂)
ヌエバ・エスペランサ日本語学校 見学・交流
CETABOL 見学

8日目:8月13日(火)
JICA 青年ボランティアと交流ワークショップ

9日目:8月14日(木)
ゲートボール交流会

10日目:8月15日(金)
ゲートボール大会
コロニアオキナワ青年未来会議 参加

11日目:8月16日(土)
豊年祭

12日目:8月17日(日)
コロニア・オキナワ入植60周年記念式典・祝賀会

13日目:8月18日(月)
サンタクルス市内観光
サンタクスル県人会歓迎交流会
サンタクスルホームステイ先へ

14日目:8月19日(火)
第三移住地 安里養豚場 視察
第二移住地 ISHUIMA社 視察
第二移住地 玉城牧場 視察
文化会館にてさよならパーティ

15日目:8月20日(水)
8:30 集合、空港へ出発
13:50 サンタクスル発 17:35サンパウロ着
23:00 サンパウロ発

16日目:8月21日(木)
7:37 アトランタ着 13:47 アトランタ発

17日目:8月22日(金)
16:30 成田着 19:10 成田発
21:50 那覇着

現地活動日誌

※現地で当日書いた日誌を掲載

★8月7日・高里 夢子

台風11号の影響もあって、出発が1日早くなり、今日は成田で1泊しています！少々長旅で、みなさん疲れています(笑)

私は昨日他の事業で4泊5日九州に行って帰ってきてからの今日なのでハードスケジュールです。でも、ボリビアに行ってホストファミリーに会えるのがとても楽しみです!!

明日、成田出発で乗り継ぎ乗り継ぎなので、体調管理はしっかりやっておきます！楽しみと緊張と不安と、沢山ありますが頑張ってきます！

出発式、那覇空港

★8月8日・伊波 璃王

今日はいよいよ成田から出発し、約13時間をかけ、アメリカ アトランタへ向かいます!!出発前から 一部アクシデントもありましたが、その後は何事もなく今の出発の時を迎えることができました!!

一歩一歩ボリビアに近づいていき、気持ちが高まってきました!!頑張ってきます。

★8月8日・今藤 詩音

全部で30時間くらいかかってやっと！ボリビアへ着きましたー！！機内食は思ったより美味しいし、隣に座ったアメリカ人の方のおかけで退屈することなく無事アトランタ、そしてブラジルのサンパウロからボリビアへ。

フライト時間が長すぎましたが時差ボケもせず(笑)ボリビア空港に着いた瞬間、現地の県人会の人々に暖かく迎えられ、長旅の疲れもふっ飛びました。

ボリビア、ビルビル国際空港

そして、用意してもらったバスでコロニア・オキナワへ!!なんと、バスではお弁当まで頂きました。看板の前で写真を撮って地球の裏側の第二のオキナワを実感しました。

その後は各自ホームステイ先のファミリーと顔合わせ、そして歓迎会がありました。たくさんの美味しいボリビアスタイルのご飯も用意してくださり、素敵な1日になりました。

それからびっくりしたことですが、ボリビアでは

・水道水は飲んではいけない。必ず沸騰させてからか、購入したお水だけ。

・生の野菜や、現地の屋台、入手先がわからないものを口にしてはいけない。

・トイレの際、トイレットペーパーは流してはいけない。

などなど・・・知らずに行くと怖い南米！！ちゃんとした下準備が必要だということに気付きました♫

★8月9日・川満　旬

今日は朝から移民の歴史資料館を見学し、コーディネーター役を移民1世の方々にしてもらい見学し、座談会で貴重なお話を聞くことができました。

今住んでいるコロニア・オキナワは昔は密林で農業などができる状況ではなかったが、みんなで助け合いながら自分たちの場所を作ってきた、とおしゃっていました。第一次移民のひとたちは第二次で移民してくる人たちのために、どんなにつらいことがあっても諦めることは出来ない、という責任と、次々来る移民者たちの期待を裏切らないようにと精一杯がんばった、という話を聞いて、すごく感動しました。

何もないところから作り上げ、ボリビアから行政区として認められて「コロニア・オキナワ」という名前がついたことのすごさを改めて知ることが出来ました。ボリビアに訪れて生の声を聞けたことは研修に参加しているみんなにとって貴重な体験になったと思います。

オキナワボリビア歴史資料館

その日の夜は第三回島唄カラオケ大会に参加しました。ボリビアに来ているけど「花」、「三線の花」、「かりゆしの夜」など沖縄の歌がいろいろ歌われ、とても盛り上がりました。海邦養秀メンバーもみんなで「おじー自慢のオリオンビール」を歌い、会場を大いに沸かしてきました。（笑）

今日も充実した一日になりました。

島唄カラオケ大会

★８月１０日・玉城　幸太

今日は歓迎交流会がありました。最初は人見知りをして話すことが出来なかったのですが、この交流会でとても仲良くなれた気がします！

夜はウークイがあって、沖縄の文化が強く根付いているな、と感じました。明日も楽しんで行きましょう！

WYUA歓迎交流会

★8月11日・比嘉　美咲

今日は CAICO と第一日ボ校に行きました！子供たちにパワーポイントを見せたり遊んだり癒されました。

その後は釣りにいって沢山魚を釣りました。今からバーベキューです。楽しみます！

第一日ボ学校

★8月12日・伊波 璃王

今日体験したことをまとめます！まず、今日はSHURI農場を見学しました。
今まで見たことの無いような大きな農地、トラクターを見学し、コロニア・オキナワの農業の素晴らしさを学びました。

SHURI農場

その後昼食を終え、午後からヌエバ・エスペランサ日本語学校に訪問しました。この学校は、
全校生徒 40 名程度という少ない人数でしたが、生徒 1 人ひとりが明るく元気で活発で、とても楽しく交流することが出来ました。

ヌエバ・エスペランサ日本語学校

最後に、CETABOL を訪問しました。ここは病害虫の分析、牛の人口受精の研究、土壌調査などを行っている施設だそうです。サービス業として、地域の人々の農地の土壌調査を行い、利益を得ていると知り、驚きました！！施設内を見学後、少し離れた牧場へ移動し、牛を見学し今日は解散しました！

★8月13日・田本 彩華

今日は 1 日 JICA のボリビア職員の方にお世話になり、コロニア・オキナワにあるボリビア人の病院や、海外青年協力隊で理学療法士として来ている方の普段の仕事を見学させてもらいました。

ヌエボオリゾンテ村

後半は、コロニア・オキナワの青年達と海邦養秀のメンバーで、『オキナワ市の市長になったつもりで、オキナワ市の課題を見つけて解決方法を考える』というテーマでワークショップをしました。オキナワの青年が自分達の村にどんな意見を持っているのかを聞けたりして、深い意見交換が出来ました。

ワークショップ参加者

★8月14日・津波 璃乃

今日はゲートボール大会の前日で色々な国から 1 世の方々が来ていて、移民当時のことなど、1 世の方々の貴重な話を聞けることが出来て、たくさん学ぶことが出来た日になりました！

ゲートボール大会会場

青年未来会議、第一日ボ学校

その後は派遣教師で来ていた先生方の歓迎会が第二移住地であり、たくさんの人が集まっていました。みんなで食事をしながら先生方の話を聞いたりして、すごいなと思ったし、自分も将来派遣教師としてボリビアに行くことができればと思いました！

ゲートボールでも歓迎会でもたくさん色々なことを学ぶことが出来たので、充実した1日になりました！

元派遣教師歓迎会、第二移住地公民館

★8月15日·玉城　幸太

今日はゲートボール大会からの未来会議でした。未来会議では今後のコロニア·オキナワと沖縄の関係について話し合いました。

とても中身の濃い会議となって、若者がこれからの沖縄を引っ張っていかないとな、と感じました。

★８月１６日・小林　純平

今日は豊年祭というコロニアで行われるイベントがありました。ここではボリビアを始めとした、南米の様々な地域のダンスを見ることができました！とても個性的な衣装や踊りに釘付けになりました!!

そして祭のトリは、琉球國祭り太鼓ボリビア支部の皆さんによるエイサーの演舞でした！演舞の素晴らしさもさることながら、沖縄から遠く離れたこの土地に沖縄の文化がしっかり根付いていることをこの目で確かめることが出来、とても感動しました！

フィナーレの花火

★８月１７日・高里 夢子

コロニア･オキナワ入植 60 周年式典に参加しました！この式典に参加出来る事は本当に光栄なことだと思います。

コロニア･オキナワは沖縄だけではなく、隣国の県人会や他の国とも連携を取っているのを肌で感じました！

実行委員長の中村さんは、コロニア･オキナワはまだ発展途中で今からもっと成長する、とおっしゃっていました。私も出来る事から協力していきたいと思いました！

コロニア･オキナワ入植 60 周年記念式典

★８月１７日・津波 璃乃亜

昨日は入植 60 周年記念式典がありました！色々な方々が来ていて色々な話が聞けて、こんな大事な行事に参加出来て良かったです。

式典の後は祝賀会があり、三線の演奏を聞いたり、エイサーを見たりしました。すごかったです～♪

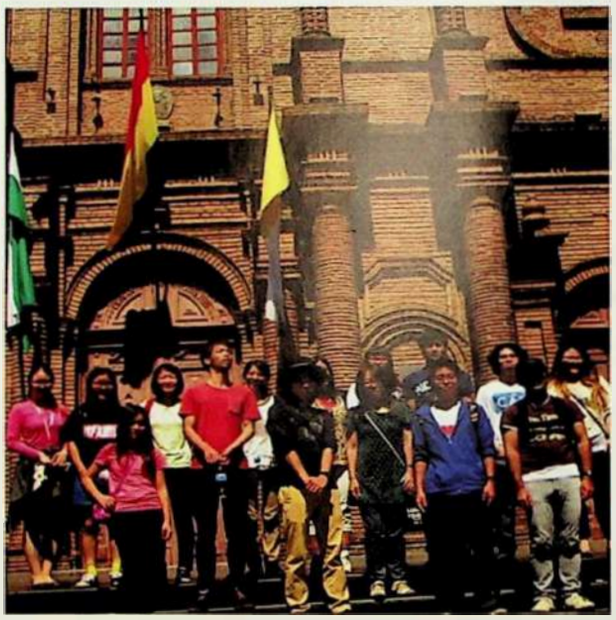
夜は名護市長さんが来ているということで、上間さんのお家で名護んちゅの集まりがありました。それに参加して初めて名護市長さんと話せたので良かったです！

コロニア・オキナワ入植 60 周年記念祭典

★８月１８日・川満 旬

今日はサンタクルスの街を観光しました。今まで畑に囲まれて生活していたので、３階建て以上の建物見たのは久しぶりでした。スタートからボリビアタイムを体験させられました。なんとバスが１時間以上遅れたのです！笑

サンタクルスに着いてカテドラルへ行った時に、ポリス達が教会の前で窃盗犯を逮捕しているところを目撃しました。



サンタクルス、カテドラル前

少し買い物をしてから、蝶がたくさんいる動物園みたいなところ行って蝶と鳥たちに襲われ、動物の恐ろしさを学ばされました T_T

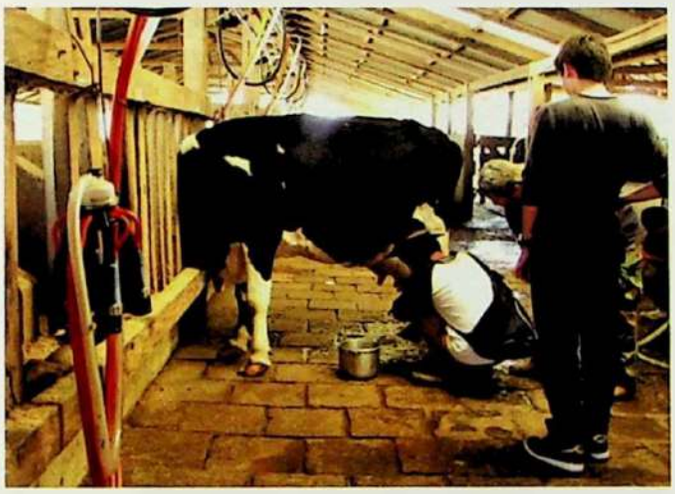
夜は街でホームステイでした。一晩だけのホームステイでしたが、とても仲良くなれました！寝て朝起きたらボリビア人が僕の部屋を熱唱しながら掃除していたのでビックリしました。チップは渡したから良いでしょう！笑

サンタクルス県人会のみなさん、ありがとうございました！

★８月１９日・今藤 詩音

サンタクルスからバスで第三移住地に戻り、安里さんの養豚場へ行きました。妊婦さんは一つ一つのケージに分かれて入っていて子豚も産まれた時期ごとにケージに入っていて凄く可愛かったです！

見学後、安里さん一家からの豚料理のおもてなしでお腹を満たした後、黒糖工場へ。凄くシンプルな工程で制作していました。そして、第二へ移動して牧場へ！！そこでは乗馬や乳搾り、ライフルの試し打ちをしました。



乳搾り体験、玉城牧場にて

そしてさよならパーティ！あー、いよいよお別れという感じでした。美味しいボリビア料理も用意されていて、改めて帰国を実感しました。本当に二週間あっという間でした！あー、寂しい（；＿；）

さよならパーティ、文化会館

★８月２０日

８月２１～２２日。２週間の研修も終わり、とうとう帰国の日になりました。長いフライトを終え、研修生みんな無事に帰国しました(^^)

帰りの飛行機の中でもまた絶対ボリビアに行きたいとみんなが口にしていました。県人会の方々、青年のみなさんにホストファミリー、私たちにこんなにも素敵な経験をさせていただいて、本当にありがとうございました(^^)！！

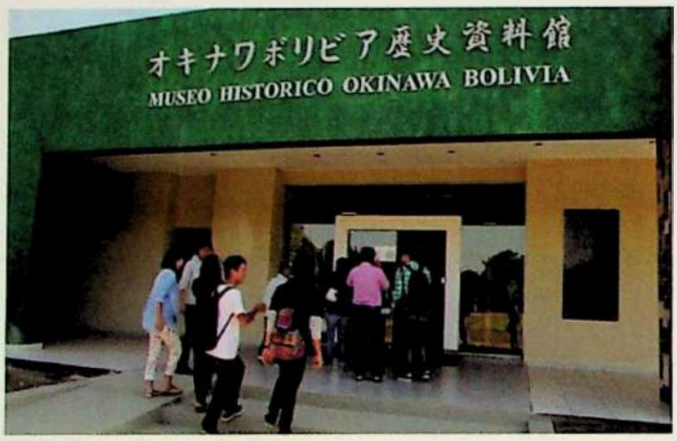
ボリビア、ビルビル国際空港

主な活動について

歴史資料館

比嘉　美咲

コロニア･オキナワ第１移住区にある歴史資料館を見学しました。



歴史資料館の中には、戦後移住してきた方々が沖縄から持ってきた生活用品や農業道具、生活娯楽品など、1世の方々から譲り受けたという品々が展示されていました。他にも、ジャングルを開拓した際に戦ったというピューマの毛皮や5m を超えるアナコンダの皮も展示されていました。またスペイン語で書かれた世界地図が歴史資料館を入ってすぐ真正面に置いてありました。

移民当時の様子の写真や生活娯楽品のレコード等がありました。また、移民した1世家族の写真が載っているアルバムがあり、この平良さんは私と同じ国頭村出身の家族です。

また、1世の方々ともお話をする機会がありました。移民する人を選ぶ基準は健康面もそうだけど、貸付や、保証人など、金銭関係が最も重視されたそうです。また、移民するきっかけとなったのは、戦後アメリカの統治下にあった沖縄で、県民は米軍からお菓子などを恵んでもらうことがあったそうで、アメリカイコール金持ちというイメージがあり、移民先としてあがった「南米」もアメリカというワードがつけばいいところだと思ったからだそうです。

ボリビアの小学校について

玉城　幸太

まず、第一日ボ学校について紹介します。第一日ボ学校は開校したのが1987年3月9日で生徒数は67名、 教員数は19名と人数の少ない学校です。

また、沖縄県の現職の教職員をボリビアへ派遣する派遣教師制度がありましたが、当初から 20 年という期間が決まっており、他にも予算等の問題でおととし廃止になりました。しかし、ボリビアからの強い要望により来年度からまた派遣教師制度が再開することになりました。

派遣教師制度とは、沖縄県の現職の教職員をボリビアへ派遣することです。 1986年からこの制度が始まり、これまで 26名の派遣教師が派遣され、コロニアに新しい教育方を取り入れています。

日本語だけではなく、ウチナーロ、三線、エイサーなど、沖縄の文化も教えています。 派遣教師はボリビアと沖縄の大きな懸け橋になっています。

次に、授業内容は午前中にスペイン語の勉強、午後に日本語の勉強をしています。 また、日本の学校と違って、学校が終わるのが遅いです。

第一日ボ学校では、沖縄文化を残すためにいろいろな取り組みがされています。 授業で三線を教えていたり、運動会でエイサーを踊ったりしています。

また、個人的に琉球舞踊を習っていて、沖縄の伝統芸能を失くしたくないという人も沢山います。沖縄の文化はとても素晴らしいと言ってくれる人もいて、うちなーんちゅである私は とても嬉しく思いました。

また、来年度から再開する派遣教師制度も沖縄の文化を残す一つの取り組みとなっています。

第一日ボ学校では、日本の学校と同様に行事も盛んに行われています。 運動会や、駅伝大会はコロニア全体で競い合います。

コロニアには沖縄にはない先生の日、生徒の日などの行事もあります。 先生の日は先生が主役で、全校生徒で余興などをして先生をもてなす行事です。

実際に第一日ボ学校に訪問に行った時、生徒たちは恥ずかしがることなく私たちと交流をしてくれました。腕相撲をしたり、沖縄のことについて話をしたりとすぐに仲良くなることが出来ました。

楽しく交流をしたあとは今のコロニアについて第一日ボ学校の生徒たちが紹介してくれました。 コロニアの歴史や第一日ボ学校の行事についてなど説明をしてくれました。

私たち海邦養秀もコロニアに伝えたい「今の沖縄」を紹介しました。 海を見たことがない生徒、沖縄に来たことがない生徒が多く、私たちの発表に対して興味深く見てくれて、とても良い発表になりました。

次にヌエバ・エスペランサ日本語学校について紹介します。 ヌエバ・エスペランサ校は1960年に創立され、2010年に50周年をむかえました。 生徒数は129名と第一日ボ学校より多く、第2、3移住区から生徒が通っています。

ヌエバ・エスペランサの教育目標は、「自分で考え学ぶ子、心豊かな思いやりもある子、心身ともにたくましい子、最後までのやりぬく子」となっています。

ヌエバ・エスペランサの授業は45分授業となっていて、第一日ボ学校同様に午前中はスペイン語、午後から日本語を勉強します。

ヌエバ・エスペランサ校の生徒たちは第一日ボ学校の生徒に比べて、日本語があまり上手ではなく、中には全く喋ることが出来ない子もいるそうです。

でも、私たちが訪問に訪れた時はゲームなどをして楽しく交流をすることができました。

派遣教師制度が無くなった今、沖縄の文化や最新の教育方法を取り入れることが難しいようです。派遣教師の役割はかなり大きかった、という事が言えます。

この「沖縄からオキナワへ」という言葉は沖縄県からコロニア・オキナワへ多くの文化が伝わり発展するように、私たち若い世代がボリビアとの人と人とのつながりを築けていけたらな、と考えさせられる写真でした。

最後に第一日ボ学校でもヌエバ・エスペランサ校でも同じだった事は、沖縄の文化を残そうという取り組みが積極的に行われていた、という事です。

また、人と人のつながりをとても大切にしていて、ボリビアの研修で学んだことは沢山ありました。 私達がこれからの沖縄とボリビアを繋いでいかないといけない、と感じた研修でもありました。

CAIC その他視察訪問について

伊波　璃王

CAICOとは、コロニア沖縄農牧総合協同組合のことで、COOPERATIVA AGROPECUARIA INTEGRAL COLONIAS OKINAWA LTDAの頭文字を取ってCAICOといいます。

CAICO は移住地の日系人農協で、1971年に第1、第2、第3移住地の単協がまとまって設立されたそうです。生産・加工工場は第1移住地にあり第2、第3移住地にも支所を置いています。本部はサンタクルス市内にあり、組合員は大田組会長を始め約120人いるそうです。

CAICO には製粉・パスタ工場や精米所などがあり主に、大豆・米・小麦・モロコシなどの作物を栽培する農業生産や収穫した作物を製品へ加工する生産・加工などを行っているそうです。

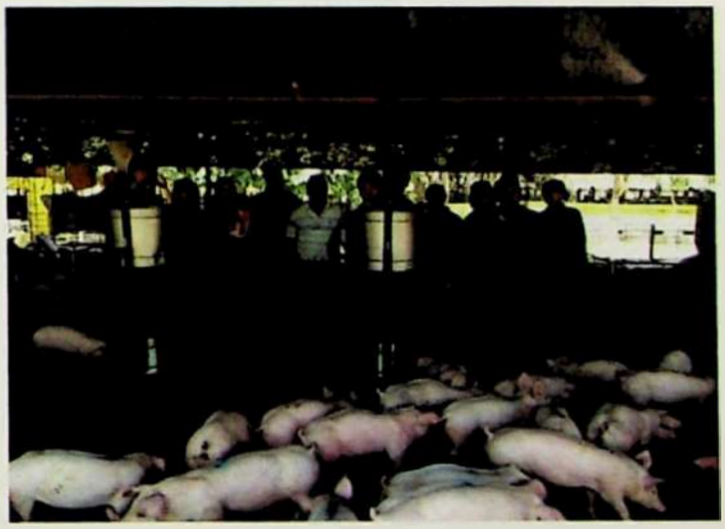
そのほかにも、畜産診療所や給油所などのサービス業や、酪農や養豚などの畜産、農業試験圃場や不耕起栽培などといった指導・研究も行っているそうです。

CAICO は2011年6月に製粉・パスタ工場を開設したと同時に、「フィデオス　オキナワ」という名前のショートパスタの販売を開始し今では1日約60トンを生産しているそうです。このパスタは1キロ1ドルと価格も安く、種類も豊富なのでさまざまな形を楽しむことができます。現在の目標は、このオキナワパスタを沢山の人に知ってもらい、ボリビアだけではなく、隣国や様々な国で販売することだそうです。

CETABOL は2010年にできた財団だそうです。CETABOL では、土壌調査や、病害虫の試験(分析)や、牛の人口受精などを行っているそうです。

ISHIMA 社は、黒糖や塩を作っている工場です。現在 ISHIMA 社は自分たちが作っている黒糖をボリビアだけではなく、他国にも輸出するための取り組みを行っているそうです。

第3移住地にある安里養豚農家で、多くの豚を養っており、子豚から立派な大人の豚まで様々な豚がいました。こちらから大きく立派に育った豚をボリビア全土へ出荷されるそうです。



JICA ボランティアとのワークショップ

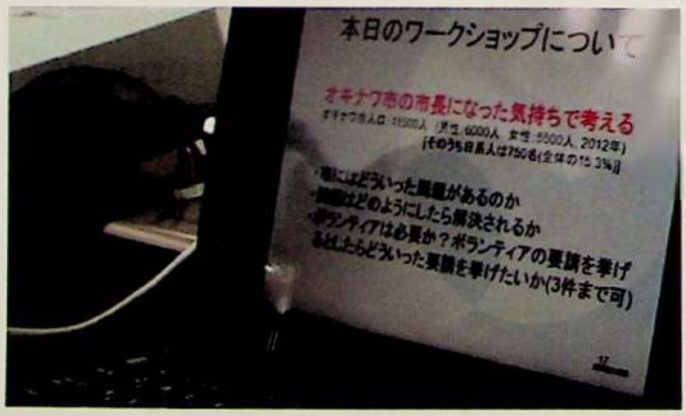
田本　彩華

JICA とは、独立行政法人国際協力機構のことです。開発途上国と呼ばれる国や地域に対し、経済及び社会の発展に貢献するため、国際協力の促進を目的としている機関です。

また、ボリビア多民族国家は南米で最も貧富の差が大きいと言われています。先住民が 40%を占めその割合がとても高いことで知られており、平均寿命は 66 歳(2010 年)となっています。

今回私達はJICAから海外青年協力隊として派遣されている菊池さんの活動を見学する事が出来ました。菊池さんは理学療法士として派遣されていて、ボリビア人の高齢者に楽しく体を動かしてもらって健康を促進させる、という目的で活動されていました。

そもそも、菊池さんが海外青年協力隊に挑戦しようと思ったきっかけは、理学療法士として働いて6年たった頃、中米ニカラグアでJICA専門家として活動されていた医師との出会いが転機だったとおっしゃっていました。しかし、その当時語学面などの不安もあったため、一度職場を退職し、カナダで一年間生活、その後は東日本大震災でのボランティアを経て、ここでの活動に辿りついたということでした。活動を実際に見て、ボリビアの人がとても楽しそうに活動に参加している様子がうかがえて、JICAボランティアの隊員は現地の人達と良い関係を築きながら活動を行っているのだと感じました。一方で、その活動は古い教会の一角で行われており、ボリビア人の方が「将来はこのような活動ができる自分達の公民館のようなものを作りたい、というのが私達の想いなんだ」と言っていたのがとても印象的でした。



菊池さんの活動現場を見た後で、JICA職員ボリビア駐在員の伊藤さんがワークショップを開いてくれました。「あなたがオキナワ市長になった気持ちで考えてみよう」というテーマで、3つの問いが出されました。①オキナワ市にはどういった問題があるか②問題はどのようにしたら解決されるか③ボランティアは必要？ボランティアの要請を挙げるとしたらどういった要請を挙げたいか。3つのチームに分かれて、コロニア・オキナワの若者たちと、海邦養秀のメンバーでお互いの素直な意見をぶつけながらディスカッションをしました。交通ルール一の強化、ゴミが多いため環境教育を導入してみる、農業を主にしているので自然災害対策の必要性は高い、病院の衛生面、道路の舗装等があがり、オキナワの青年が自分達の村にどんな意見を持っているのかを聞くことができました。

コロニア・オキナワ未来会議について

川満 旬

未来会議とはWYUA(世界若者ウチナーンチュ連合会)が主催した企画に私たち海邦養秀が沖縄代表の一員として参加させていただいたものです。未来会議を現地の青年たちと行うことで今後もコロニア・オキナワが2つ目の沖縄であり続けるためにみんなで考えていくとても大切な機会です。

未来会議の流れと会議を行った後の流れは、まず「コロニア・オキナワ内での青年のつながりと今後について問題提起」次に「沖縄の青年とコロニアの青年たちとで問題解決策を議論」

最後に「解決策をまとめ60周年記念式 典で宣言する」という流れになっており、3つめについては、会議の後日に行われた60周年の祝賀パーティー内で宣言しました。

議論の方法としては、第一、第二、第三移住地の青年会長から出た課題を皆で3つ決め、その内容を8グループに分かれて議論。その内容をさらに深く皆同時に共有するためにフィッシュボールという討論方法で行いました。フィッシュボールは大勢で討論する際に使われる手法で円の中心で行われている議論を周りの聴衆は聴いて意見したりできます。

第1、2、3移住地、コロニアから100キロほど離れたサンタクルス市街地に住んでいる青年会長にそれぞれに現在と今後の課題についてプレゼンテーションをしてもらい、そこで挙がった課題を議論しました。

青年会長たちからあがった主な課題をまとめるとこちらの3つが挙がりました。

「コロニア・オキナワと沖縄の交流」「若い世代の日本語の継承」「コロニア・オキナワ内の青年たちの新しい動き」この課題を先ほど述べた討論方法で議論を行いました。

グループに分かれてどんな討論をしたのか私のいたグループで例を挙げてみたいと思います。私たちのグループで挙がった内容ではまず、ボリビアから来る研修生はたくさんいるが、沖縄からは派遣教師の人たちが主だったため青年同士の交流というのが少なかったという意見がありました。派遣教師が復活したのはいい事だが派遣教師、沖縄にくる研修生だけでは交流には限界があるというようにまとまりました。それを解決するためには沖縄からもっと盛んに若者や派遣教師以外の何か専門分野の人たちがボリビアに来るべきという案がでました。

ボリビアで沖縄の人がさらに行動を起こすことでたくさんの刺激をあたえることができる。それによって結果的に日本語継承や青年たちの新しい動きにつながるのではないかと私たちのグループでまとまりました。

そして各グループで内容を発表しこのような宣言文が完成しました。

青年たち皆で議論し決定した宣言内容は

【コロニア・オキナワと沖縄の交流】

・5年に1度、コロニア・オキナワと沖縄の青年が協力して、沖縄アイデンティティーを考える場を一緒につくる

・今ある研修制度やイベントをさらに活用する。

（県費留学、海外市町村研修制度、世界若者ウチナーンチュ大会など）

【若い世代の日本語の継承】

・青年たちが半年に1回、日本語について考える場を設ける。

・私達が親になった時に、日本語を教える姿勢をみせ、日常生活で使っていく。

【コロニア・オキナワ内の青年たちの新しい動き】

・ 青年たちが合同でテーマに沿ったイベントを企画する。（文化継承：島唄カラオケ大会など）

・イベント終了後、反省会及び記録を行い、次に活かす。

これらの未来宣言を入植60周年記念祝賀会で舞台に立ち、祝賀会に参加された皆さんの前で宣言しました。

宣言した際には会場から多くの拍手をいただき、移住地の今後の未来について共有することが出来たと思います。

「豊年祭」について

小林 純平

豊年祭とは、コロニアで作られる大豆や小麦などの豊作と、コロニア地域に住む日系人とボリビア人の交流を目的として行われています。今年はコロニア・オキナワ入植60周年記念式典の前日ということもあり、ブラジルやペルーなどの南米諸国からもたくさんの人が参加していました。ここでは、日本や沖縄、そしてボリビアの伝統芸能が披露されました。

また、会場にはたこ焼きや沖縄そばなどの出店がたくさん並んでいて、活気に満ちていました。その様子は、日本の夏祭りの景色を彷彿とさせるものでした。

豊年祭で実際に行われたプログラムは、まず開会式が行われ、日本とボリビアの国歌を斉唱しました。私はこの時初めてボリビアの国歌を聞いたのですが、とても力強い曲調で、ボリビア人の国民性をよく表しているなと感じました。また、海外で日本の国歌を聞いたのもこの時が初めてだったのですが、外国にいるからこそ感じられる日本の魂を感じた気がしました。

その後、プログラムが始まりました。まず、コロニアのお年寄りの方々による三線の演奏が行われ、「安里屋ユンタ」などの名曲を披露していました。次に現地の女性たちによる日本舞踊が行われました。どちらも日本、沖縄が誇る素晴らしい伝統芸能で、それらをこのボリビアの地で見られたことはとても良い経験となりました。中には感動のあまり涙を流している人も見えました。

その後、コロニアの二つの学校の生徒たちによる合奏や、ボリビアの伝統舞踊が行われ、さらに空手道や和太鼓の演奏も披露されました。

そして、「豊年祭」の締めには、琉球國祭り太鼓ボリビア支部によるエイサーの演舞が行われました。演舞が始まる頃には会場の熱気は最高潮に達していました。初めに獅子舞の演舞があり、その後大太鼓が入場するという形でした。この豊年祭でエイサーを観ることは、個人的に今回の事業で最も楽しみにしていたことの一つだったのでかなり期待していたのですが、その演舞は想像を遥かに超える素晴らしいものでした。気合の入ったフェーシ、勇壮な踊り、太鼓の音色、すべてに感動しましたが、一番感動したのは、沖縄から遠く離れたこの地でエイサーという伝統が脈々と受け継がれているという事実をこの目で見ることが出来たことです。エイサーに限らず、ここで見た伝統芸能をすべて後世に伝えていってほしいと心から思いました。

60周年記念式典・祝賀会

津覇　璃乃亜

式典が始まる前に、慰霊祭が行われました。多くの人が参加し、ひとりひとり焼香しました。

1954年にうるま移民地に第1移民団が入植しました。しかし、移住者の計15名が原因不明の熱病で命が奪われたため、風土病のある土地から離れたいという思いで、新しい移住地への移動を決意しました。そして、パロメティーア移住地に移動しました。しかしそこでは土地の確保の問題などで新天地を求め、現在の第1コロニアに移動しました。そして1959年には第2コロニア、1962年には第3コロニアが設立されました。

移民当時は車や人が通る道もなくジャングルで、自分達で土地を切り開き、大変な思いをたくさんしたそうです。

それから60年が経ち、1世の方々の努力で今ではたくさんの家が立ち並び、農業も発展しています。

コロニア·オキナワ入植60周年記念式典には、ボリビア村村長を始め、オキナワ移住地の方々や、沖縄県からも副知事をはじめ市長、町長、村長、議員など大勢の方が参加しました。

来賓祝辞や感謝状贈呈なども行われ、このような貴重な式典に参加することが出来、この年に来ることが出来て良かったなと思いました。

記念式典のあとには体育館で記念祝賀会が行われ、ボリビア琉球舞踊同好会の方々が、かぎやで風を踊ったり、青年会の方々がボリビア民族踊りを披露してくれたりしました。

第1日ボ校·ヌエバ校生徒による合唱や三線の演奏などもあり、楽しむことが出来ました。

沖縄県人会·日ボ協会について

今藤　詩音

ボリビア沖縄県人会設立の経緯として、当初は農業、牧畜業、養鶏業などの生産物管理から移住者の援護事業、出生、死亡など各種戸籍届出に関連する役場的な事務まですべて農業協同組合が行っていました。1978年オキナワ移住地の行政機能を担う『オキナワ日本ボリビア協会(オキナワ日ボ協会)』がコロニア沖縄農牧総合共同組合(CAICO)の行政部から独立して説立されました。沖縄県との交流も盛んになっていく中、母県との関係をより密にして、かつ円滑な業務を行うためには、ボリビアにおける沖縄県系人をまとめ、母県との交流の窓口となる機関を設立する必要性がありました。そして1987年7月11日、オキナワ日ボ協会、サンタクルス市沖縄県人会、CAICOが協力し、ボリビア全土に在住する県系人をまとめる組織として『ボリビア沖縄県人会』が誕生しました。

次に事業の概要についてです。

1、入植祭、その他沖縄県系人が行う行事への参加。

2、ゲートボール他親善行事の主催または共催、参加。

3、会員相互のレクリエーションの実施。4、沖縄ボリビア協会との人的交流に強化(留学生など)。

5、沖縄ボリビア医療興隆協会と連携し、沖縄県系人の健康保持に関する継続的な協力を行う。

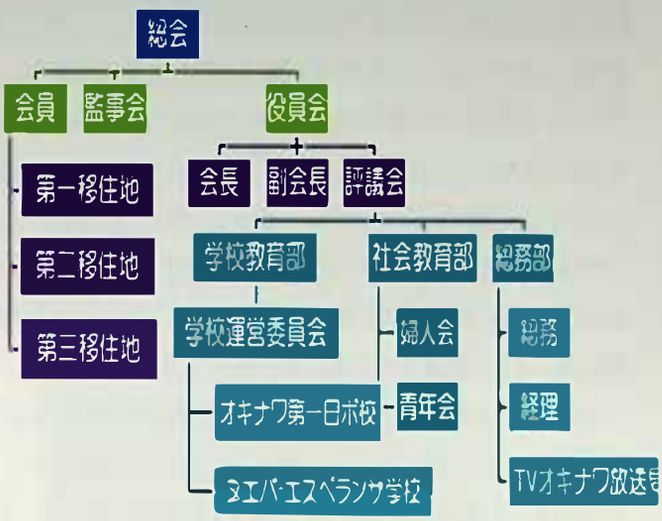
6、沖縄県ならびに国外県人会との連携および来訪者との懇談や接待。

7、サンタクルス県一沖縄県姉妹連携による関連事業への協力。

8、研修生、留学生への選考、推薦、送出業務。

などが沖縄県人会の役割となっています。

南米への移民政策の背景には、日本の戦後の食糧難があったようです。食糧が足りずに、少しでも人口を減らそうとした結果、移民政策を思いついたというものです。



もちろんそう堂々とは言えるはずもなく、渡航した人たちは南米での広大な土地を耕してもうけようという希望に満ちていたそうです。成功して今もサンフアンに残っている人は、そのうちのほんの一部らしいです。土地を売って日本へ引き揚げたり、ブラジルやパラグアイ、アルゼンチンに移住した人もいるそうです。

ボリビア沖縄県人会(宮城和男会長＝会員320人)は臨時総会を開き、国頭村出身の知念良信さん(65)を新会長に選出しました。任期は2年です。

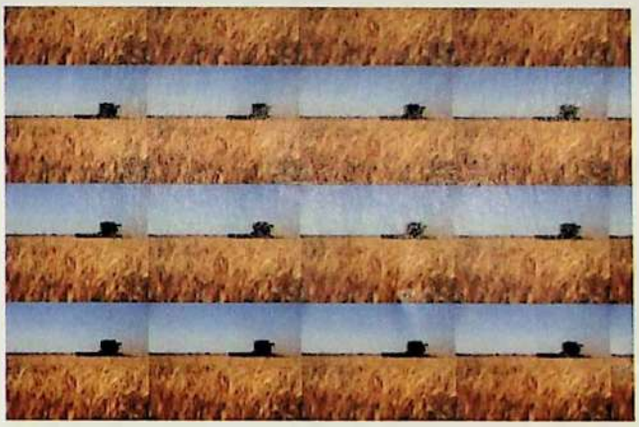
知念さん1961年に第11次として、オキナワ第2移住地に入植しました。以来、同地で農業に従事しています。

通常総会、臨時会ともサンタクルス州の第1移住地に所在するオキナワ日本ボリビア協会のホールで開催され2013年度通常総会で、任期満了に伴う役員改選で選ばれた会長が就任を辞退したため、臨時会を開き、知念さんを選出しました。

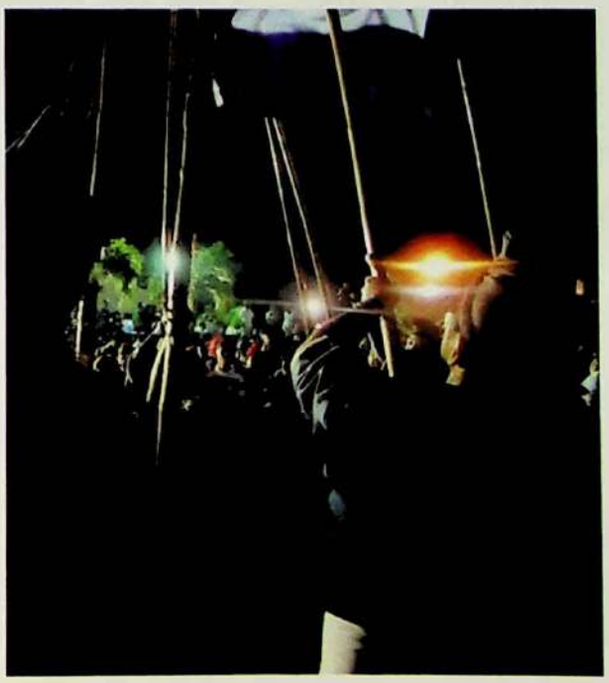
コロニア・オキナワの行事について

高里　夢子

1月は成人式、沖縄角力大会、2月と3月は大豆の収穫、4月、5月は小麦の植え付け、6月にはコロニア・オキナワ縦貫駅伝があり、第3移住地から第2移住地までの37.2 kmを駅伝チームが走ります。7月はコロニア・オキナワ大運動会があって、第1～第3移住地、サンタクルス地区別チームが団結してスポーツを競い合い、親睦を深めます。8月にはオキナワ移住地最大のイベント豊年祭があります。9月には小麦の収穫があります。小麦は冬作の一番重要な作物で現在は15,000ヘクタール近く栽培されています。10、11、12月は稲、夏作大豆の植え付けがあります。



毎年8月にある豊年祭はオキナワ移住地で最もっ親しまれている祭りです。最後のカチャーシーの時に旗頭があり、ボリビアにも旗頭があるのにびっくりしました。旗頭は50周年記念の時に結成して、もう10年になるそうです。私はこの時飛び入りで参加させてもらいましたが、持ち方が違うのも驚きでした。参加出来て、とても良い想い出になりました。

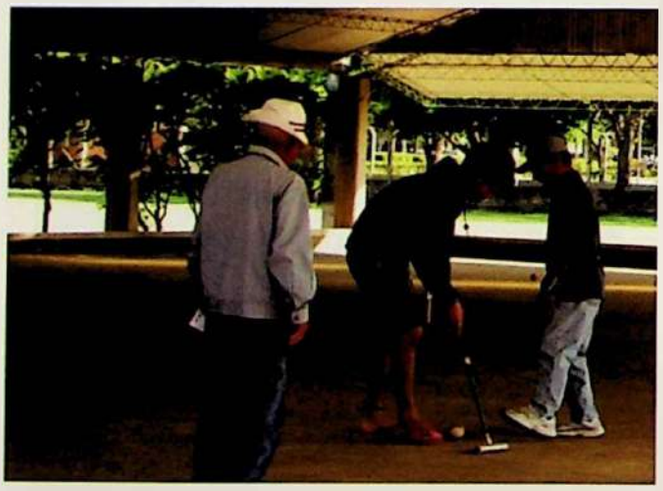


ボリビア活動報告

川満　旬

ボリビアでの２週間は「私は今、ボリビアにいる」と実感する時間が本当に少なかったのではないかと思ってしまう2週間でした。なぜなら、多くのうちなーんちゅが移住しているコロニア･オキナワという場所は、日本語が通じ、沖縄の文化をしっかりと継承していたからです。日本語を話す時も、イントネーションは沖縄の人でもあったので、全然違和感なくボリビアでの生活が出来ました。

私がコロニア･オキナワで最も印象に残っていることは、ゲートボールの練習に参加させてもらったことです。様々なところを訪れましが、おじい、おばぁと一緒になって何かをやるということは、この歳になった私にはとても貴重な時間となりました。ゲートボールは今までやったことがなく、沖縄ではなくボリビアに来て初めて体験することになるとは思わなかったです。それと同時に１世の方々とお話しすることが出来、移民した当時の出来事を直接聞くことが出来ました。



コロニア･オキナワの人たちからは、感謝してもしきれないくらい様々なことをしていただきました。ホームステイ先の家族には、朝と夜のおいしいご飯を作ってもらったり、洗濯をしてもらったり、と自分の家で過ごしているかのように環境を整えてくれました。青年たちは、朝から夜まで私たちの活動につきあってくれたり、訪問先まで送ってくれたり、日本では体験出来ないことを、自分の時間をさいてくれて私たちの為にやってくれました。

ボリビアでは、多くの人たちのサポートがあったから私たちの研修がスムーズに行えたし、楽しい思い出を作ることが出来たのだと思います。ボリビアに来て、“おもてなしのうちなーんちゅの心”を学んだと強く思いました。

大城ファミリー

沖縄が残る“オキナワ”

田本　彩華

「会いにいってみたい」2012 年、第5回「世界のウチナーンチュ大会」のパレードでした。国際通りで各国の国旗や衣装を身にまとったウチナーンチュたちが、伝統音楽や掛け声を掛けながらパレードをしていました。始めは見ているだけの私でしたが、パレードの熱気と世界から集まって来たウチナーンチュ、沖縄の人々の歓迎を目にし、気付けば沿道からおかえりなさいと言っていました。「いつかこの人たちの住む場所へ行ってみたいな」そして今年の夏、海邦養秀プログラムで私はボリビアに行く機会をいただきました。

研修を終えて感じたことは、「沖縄よりもうちなーらさが残っている“オキナワ”があった」ということでした。

私がまず衝撃だったのは、沖縄人が使う日本語のニュアンスやイントネーションを若者がそのまま受け継いでいたことです。行く前に、日本語がとても残っているとは聞いていましたが、本当にそのまま残っていることに驚きました。そして、あいさつを交わした次には、すでに私のことを親戚のように受け入れてくれるオキナワのみんなに出会い、その暖かい気持ちが胸に染みました。

研修では一世の方の移民当時の話しをゆっくり聞く機会をいただきました。事前学習で移民の歴史について学び、原生林を切り拓くことから始めたという過酷な状況であったことなどもうかがってはいましたが、一世の方たちは想像を絶する苦労であっただろうことに対しても冗談を交えながら笑って話して下さりました。その表情を見ているとぐっと込み上げてくるものがあり、ウチナーンチュの力強さを感じました。また、私が直接お話しを聞くことでもう一つ思ったことは、故郷の沖縄、そしてボリビアのオキナワどっちも愛しているのだという事でした。

また2週間の滞在中に60周年式典、豊年祭、カラオケ大会、ゲートボール南米大会など様々な行事を見る機会がありました。そこで思った事は、若い世代が行事の中心にいるという事でした。青年たちが会場の準備や運営をするのはもちろん、運営以外にもみんなが何かの役割を持ち、各行事ではエイサーや琉球舞踊や三味線を披露していました。若者が地域の行事を動かしているというのが、とても印象的でした。

研修中にはWYHA 主催の「コロニア･オキナワ若者未来会議」も行われました。会議では、コロニア･オキナワが沖縄と繋がる必要性は何か。という問いに対しグループに分かれて話し合いました。実は私は研修に来る前、沖縄が一方的にコロニア・オキナワと繋がろうと盛り上がっているのではないかという不安がありました。しかし、議論の中で日本語は残した方が良い、沖縄と繋がりたいというオキナワの若者の熱い思いに触れ、今はとりあえず交流を絶やさずに繋がることだけでも十分大事な意味ある事だと強く思うことができました。

この2週間は本当に濃いものでした。たくさんの人に出会い繋がり交流し、たくさんの縁に恵まれ貴重な時間を過ごす事ができました。戦後沖縄が苦しい時代に海外へ飛び立ち頑張ってくれたウチナーンチュがいたからこそ、今の沖縄があるのだと感謝しています。私達を受け入れて下さったコロニア・オキナワの皆さん本当にありがとうございました。「イチャリバチョーデー」の意味を身に染みて感じています。コロニア･オキナワが大好きです。心から感謝しています

赤嶺ファミリー

ボリビアの家族に会いに行こう

今藤　詩音

約30時間のフライトを経てボリビアに到着して、すぐに現地の県人会の方々に迎えられました。そこからはバスでコロニア・オキナワ移住地に移動しました。オキナワ移住地の入り口には大きな「Bienvenidos a OKINNAWA めんそ～れ オキナワへ」という看板があり、世界の裏側、南米もう一つの沖縄に来たのだと実感しました。

オキナワ移住地に到着してからすぐにホストファミリーとの顔合わせがありました。わたしのステイ先は第一移住地の親川家でした。ホストファザーはとても面白い方で、毎日の送迎のみならず、自由時間には畑に連れて行ってくれて野生のワニを見せてくれたり、同窓会へ連れて行ってくれたり、ボリビアでの楽しい生活の話や昔の苦労話、生活の知恵など話してくれました。ホストマザーも優しくて一緒に街に行って食事をしたり、動物園やショッピングセンターに連れて行ってくれたり、しました。また、帰国用のお土産をたくさん準備してくれて何不自由することなく二週間過ごすことが出来ました。ホストシスターもブラザーも素直ですごく可愛くて一緒の家族のようで充実した二週間でした。

また現地の県人会、青年会の皆さんには本当に何から何までお世話になりました。毎回の送迎、活動進行、食事の手配、どこに居ても何をするにも皆さんがすごく協力してくれたおかげですごく充実した研修をすることができました。

私が一番印象に残っているのは豊年祭でした。現地の県人会の方だけでなくボリビア人も多く参加していて、伝統衣装にダンスなど本場のボリビアスタイルを目にすることが出来ました。また、日系小中学生による出し物、婦人会により歌やダンス、青年会による和太鼓そしてエイサーは母県沖縄に劣らずとてもダイナミックで、フィナーレには母県同様、会場全体でカチャーシーをして幕を閉じる。というものだったのですが、沖縄県にいるかと思うくらい沖縄らしくて、県人会の皆さんの沖縄県に対する情熱や地元愛がとても感じられて、本当にいい経験をさせてもらいました。

今回の研修はたった二週間というすごく短いものだったのですが、毎日毎日が本当に充実していて二週間以上の経験をすることが出来、自分自身も考え方を大きく変えることが出来ました。海邦養秀メンバーと訪問することが出来て本当に良かったです。

親川ファミリー

絆を感じた二週間

小林　純平

正直に言って、私はボリビアへ発つ直前まで期待に胸を膨らませていましたが、それと同時に現地でうまくやっていけるのか、不安で仕方なかったです。というのも、今回のプログラムの参加者の中で、県外出身者が僕一人だけだったからです。私は神奈川県横浜市の鶴見区という所で育ちました。この鶴見という地域には、昔から沖縄や南米系の移民が数多く住んでいます。そのため、沖縄の人々は幼い頃から私にとって身近な存在でした。しかし、私は沖縄の家族と一緒に生活したことがないためホストファミリーとどうやって交流すればいいか、とても悩んでいました。また、沖縄県についての知識もほとんど無かったので、コロニアの人々から沖縄の現状について質問された時、うまく答えることが出来ないのではないかという不安を抱えていました。

喜久山ファミリー

私はそんな複雑な心境のままボリビアへと向かいました。そこで私を待っていたのは、想像を遥かに超える広大な大地と、それに負けず劣らず広い心を持ったコロニアの人々でした。コロニアの人々は皆本当の家族の様に私に接してくれ、それまで抱えていた不安が嘘の様に消えて無くなっていくのを感じました。

そして、驚いたことにコロニアの人々の中には私の出身地である鶴見にかつて住んでいたという方がと沢山いらしゃいました。

今回、私がお世話になったホストファミリーの喜久山家の皆さんも、以前鶴見に6年ほど住んでいて、今は娘さんのご家族が暮らしているそうです。私とホストファミリーの皆さんとの間に意外な共通点を発見でき、とても嬉しかったのを覚えています。他にもコロニアには私がよく利用していたスーパーマーケットに行っていた人や、私の実家のすぐ近所に住んでいた人がいて、彼らと鶴見についての話が出来たことが本当に嬉しかったです。

最も驚いたのは、プログラムの終盤で訪れたサンタクルス市の県人会では、なんと私が通っていた中学校の後輩にあたる人に会えたことです。彼は一年生の間のほんの僅かな期間しか在学出来なかったそうですが、日本の裏側にあたるこの地でこうして出会えたことに私は深く感動しました。

今回の事業を通して、私はコロニア・オキナワと沖縄県との繋がりをとても強く実感しました。そして今、あまり具体的な考えではありませんが、私は沖縄とコロニアとを繋ぐ架け橋にもう一つ、鶴見を繋ぐ橋を架けていきたいと考えています。そのために私は沖縄だけでなく、地元に戻ってボリビアでの数々の経験を鶴見の人々、特に鶴見のウチナーンチュの皆さんに伝えていきたいと思っています。

最後になりますが、私に新たな視点、考え方を与えてくれたこのプログラムに参加して本当に良かったです。本当にありがとうございました。

海邦養秀ネットワーク構築事業を通して

玉城　幸太

私は８月６日～２２日まで、研修でボリビアに行って来ました。約３０時間のフライトを経てボリビアに到着しました。ゲートを出ると、沢山の県人会のみなさんから歓迎してもらった時の感動は忘れません。

ボリビアでの初日はホストファミリーとの初顔合わせで、第一印象はウチナーンチュだ！と思いました。ウチナーグチを日常的に話していて、日本の正反対にあるボリビアにも同じ沖縄があるんだなと感じました。

翌日は、歴史資料館に行き、移民の歴史や体験談を一世の方々から伺いました。「今では豊かになっているコロニアだが、移民当時は苦難の連続で、今日をどう生き延びるかの生活だった。」と聞いて、今こうしてコロニアが豊かな生活を送ることが出来るのは、一世の方々が苦労してきたからだと知りました。午後からは島唄カラオケ大会があり、私たちも参加させてもらいとてもいい経験となりました。他にも農場でボリビアの農業を見学させてもらいました。ＧＰＳ機能を使った農業をしており、沖縄と比較しても発展しているなと感じました。私の父も農業をやっているので、コロニアの農業について伝えたいと思いました。

私が一番印象に残っているのは豊年祭です。南米各国から多くの観光客が集まり、ボリビア各地の伝統芸能や民族舞踊を観賞しました。どの舞踊もとても個性的で、地域によって特徴があり、とても魅力的でした。そして一番驚きだったのは琉球國祭太鼓ボリビア支部の演技でした。三線を奏で、太鼓を打ち鳴らす姿は沖縄の青年会そのものだと感じました。沖縄から遠く離れたボリビアの地に沖縄の伝統文化がしっかり根付いていることに感動しました。

私は三線と沖縄角力をやっています。現在の沖縄の若者たちが三線を弾けない、沖縄角力を知らない、方言を話せないなど、ウチナーンチュナなのに沖縄のことを知らないことは恥ずかしいと感じました。このような沖縄の課題点は、青年の私たちがこれから取り組んでいかないといけないと、この研修を通して強く感じました。

帰国の日、沢山の方々が見送りに来てくれました。ボリビアで学んだことを忘れずに、これから沖縄県の人々にボリビアで頑張るウチナーンチュの姿を伝えていきたいです。そしてウチナーンチュであることを誇りに、ボリビアと沖縄の懸け橋になれる人材を目指して進んでいきます。このような素晴らしい経験をさせて頂き、本当に有難うございました。

池原ファミリー

コロニア・オキナワでの思い出

比嘉　美咲

私は今回の海邦養秀ネットワーク構築事業に参加して、とても良い経験になりました。

地球の裏側、南米に行くのは初めてで30時間のフライトはとてもきつかったです。しかし、ボリビアの空港に到着した時、県人会の方々が暖かく迎えてくれて嬉しかったのを覚えています。また、コロニア・オキナワに入る時に看板があって、その看板には「めんそーれ・おきなわ」と書かれていました。今まで事前研修で何度かこの看板の写真を見ていたのですが、実際に自分の目で見てみると驚きと同時に嬉しさがこみ上げてきました。

そして、文化会館に到着したとき研修生のホストファミリーが迎えに来てくれました。私のホストファミリーは知念良信さんと由紀子さんご夫妻で、同じ国頭村出身ということもありすぐに打ち解けることができました。歓迎会でもたくさんの人たちと交流することが出来ました。コロニアの方々は積極的に私たち研修生に話しかけてくれて、嬉しかったです。

私が一番楽しかったのは、青年会と WYUA のメンバーとのスポーツ交流会です。私はもともとバレー部に所属していたこともあり、スポーツ交流でバレーをすることになった時はとてもわくわくしました。プレーしてみると、青年会の方々はとても上手で、沖縄に来たら普通に県選抜になれるのではないかと、真剣に思いました。

そして、コロニア・オキナワ青年未来会議にも参加しました。私も沖縄県の若者代表として会議に参加し、今後のコロニア・オキナワについて話しました。そこで、ペルーの人や、コロニアの人たちと意見を交わし、とても刺激を受けました。特にペルー出身の人は、自分の意見を持っていて、すごいなと思いました。

私のホストファミリーは1世で、入植当初はとても苦労したそうです。私のホストマザーは、当時泥水を飲んだこともあったそうです。

知念ファミリー

しかし、今ではコロニア・オキナワはボリビアでも小麦の都市と呼ばれるくらいになり、生活も苦労は無いそうです。今のコロニア・オキナワがあるのは1世の方々の苦労があったからだと思います。しかし、私たち沖縄県民はあまり移民について知らないのが現状です。実際私もこのプログラムを知るまで、海外に沖縄県民がいることは知りませんでした。また、私の学校の先生もコロニア・オキナワのことを知りませんでした。私は9月26日に行われる英語スピーチコンテストでボリビア移民について発表しました。こういった活動から少しでも多くの沖縄県民に海外へ移民した人たちのことを知ってもらいたいと思います。

ボリビアへ行った2週間は、私の生まれ育った沖縄県について改めて知る良い機会になりました。今回、関わってくれたすべての皆さん、本当にありがとうございました。

島袋ファミリー(サンタクルス・ホストファミリー)

もうひとつのオキナワを訪れて

伊波　璃王

3度の事前研修を得て、私達参加者9名引率者2名の計11名は8月6～23日の約2週間、南米のボリビアにある沖縄県系人移住地「コロニア・オキナワ」へ訪問しました。まず、移住地のあるサンタクルスの空港に着くと移住地の青年の方々や沢山の沖縄県人会の皆さんに温かく迎え入れてもらい、嬉しさを感じると同時に安心しました。ボリビアへ入国すると見慣れない景色の連続で、これから始まるボリビアでの2週間、どのようなことが待っているのか期待に胸をふくらませました。

いよいよ移住地に着くと、そこは私が想像していた以上に沖縄らしさが溢れており、日本語はもちろんですが、方言もしっかり生きていることがとても驚きでした。2日目に行われた島唄カラオケ大会では、出場した全員が自慢の島唄を披露してくれて、とても感動的な1日となりました。この島唄カラオケ大会のような移住地一帯となって行う行事は多く存在し、移住地の人々、皆の仲がよく、家族の様に接していて、皆で沖縄の文化や風習を大事に残している所が私はとても嬉しくて、誇りに思いました。

また、今回私はコロニア・オキナワ第3移住地の謝花ファミリーのお宅にホームステイさせていただきました。その謝花家では毎日、お母さんが美味しいウチナー料理を作ってくれて、沖縄から遠く離れたボリビアにいながら気持ちはずっと沖縄のままでした。このように「コロニア・オキナワ」という場所は、ボリビアという国を感じさせない程沖縄らしさに溢れた素晴らしい場所でした。

また今回の研修では、みんなで釣りをしたり、移住地の青年の方々と交流をしたり、小中学校へ行って子供達と遊んだり、珍しい物を食べたり、など、とても楽しく勉強になった2週間を過ごす事が出来ました。

でも、このような良いことばかりではなく、私は辛いことも経験しました。それは最終日の朝に、お腹を壊したことです。その日私は集合場所ではなく、病院へ向かうことになりました。一時は帰れるのか危うかったのですが、点滴を受け無事帰ることができました。その時は最終日というのもあって、時間がないのにホストファミリーやメンバーの皆さんに迷惑をかけてしまって、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

今回の反省点として、食事や体調管理はしっかりしておくことと、もう1つ感じたことは本当の沖縄に住んでいる私達が沖縄のことをもっと知らなければならない、ということです。

今回は2週間という短い期間でしたが、1人のうちなーんちゅとして「もうひとつのオキナワ」へ行くことができ、とても良かったと思っています。次は自分自身がもっと成長して、沖縄のことをもっと知り、またボリビアへ行きたいと思いました。

謝花ファミリー

ﾎﾞﾘﾋﾞｱで貴重な経験をして

津波　璃乃亜

私は第三移住地に2週間ホームステイでお世話になりました。5人家族でお父さんもお母さんもとても優しくていい人で明るい家庭だったので、毎日充実した生活を送ることができました。第一移住地から第三移住地まで車で約1時間もかかり、しかも舗装されていないガタガタ道だったので行き帰りと往復するのは少し疲れました。でも、それもここでしかできない良い経験だなと思いました。地球の裏側なのにコロニア・オキナワでは日本語で話せるし、しかも方言を話す人もいて沖縄にいる感じでとても親しみやすかったし、初めて会った人なのにすぐに仲良くなれたし、とてもボリビアにいるとは思えなかったです。

仲村ファミリー

私のいた第三移住地には昔、私の祖父の兄が住んでいて、今はもう日本に住んでいるけど、祖父の兄のことを第三移住地の人みんなが知っていて嬉しかったです。名護市出身の人で移民する前に祖父の家の近所に住んでいて、祖父のことも知っている人がいてすごく親近感がわきました。私も知らなかった祖父の家族のことなど、色んな話を聞くことができて本当に運が良いなと思いました。まさかボリビアでこんな話が出来るとは思ってもいなかったので、とても嬉しかったし、この研修となにか縁があるのではないかなと思いました。また 60周年記念式典の時に名護市長が来ているということで名護人の集まりにも参加することも出来ました。本当にボリビアに行って良かったなと強く思いました。

ボリビア、コロニア・オキナワで色々なことを学んだり、交流をしたりと楽しんだけど今後の課題も見つかりました。たくさん反省点がありますが、一つは沖縄人なのに方言があまり話せないこと、もう一つは自分の地元についてあまり知らなかったことが一番大きな反省点です。自分と同じ名護市出身の人と名護の話をしても、知っているはずの名護のことをあまり知らなくて、ボリビアに行く前にもっと勉強しておくべきだったなと思いました。

ボリビアでは色々な貴重な話も聞け、貴重な体験をたくさんすることが出来て、本当にこの研修に参加出来て良かったなと思いました。沖縄に帰ってきても、逆にホームシックになるぐらい、楽しくて内容の濃い2週間でした。自分がボリビアで体験したことを家族や友達などたくさんの人に話し、ボリビアの方々とはこれからも連絡を取り合って、またボリビアに行けたらいいなと思っています。

知花ファミリー（サンタクルス・ホストファミリー）

沖縄の裏のオキナワ

高里 夢子

私は、ボリビアでの二週間の研修を通して、沢山の出会いと初めての経験、移民した方々から貴重な話を聞いて初めてわかった事、いろいろな事を学ぶことが出来ました。沖縄との違いや、改めて沖縄の良さなどを実感することが出来ました。

最初はコロニア・オキナワとはどういうところだろう、と思ったりしていましたが、実際、現地の方は沖縄と変わらないウチナーンチュだなと思いました。それを実感したのは二週間の研修の中に組まれていた、島唄カラオケ大会や釣り大会、そして、豊年祭、60 周年記念式典でした。一つ一つの行事に、一生懸命な青年会のみなさんを中心にした、県人会や婦人会のみなさんのユイマール精神を近くで見て実感しました。

みんながみんな助け合いながら協力していて、本当に素敵だなと思いました。

その沖縄らしさがあるのも 60 年前に計画移民でボリビアへ移民してきた人たちのおかげだと思います。ジャングルだった土地を開拓して、沢山の困難や苦労があった中での今のコロニア・オキナワがあるんだな、と感じました。

当時、計画移民で移民してきた一世の話を聞いた時も、うるま病という感染症が流行って犠牲者が出たり、自然災害で開拓した土地を出ていかないといけなかったり、と直接聞かないと分からなかった事ばかりでした。本当に貴重な話を聞けて良かったです。

オキナワの二世、三世の方で沖縄に行った事がない人でも、「自分のルーツである沖縄に絶対行く」と言っているのを聞いて、私はとても嬉しくなりました。でも、今の沖縄の若い人たちは、方言が喋れない人が多く、伝統芸能に関わっている人は、ほんの少ししかいません。海外から来た県系人の方々が沖縄へ来て、それをどう思うでしょうか。私だったら、想像と違ってショックを受けると思います。ですから、私は、ウチナーンチュとして沖縄の文化を守って継承していきたいとがあることを思いました。沖縄とオキナワを繋ぐには、私も、もっと沖縄のことについて知ること、そして、南米にもオキナワがあるということを、多くの人に広めていきます。

2年後の世界のウチナーンチュ大会に向けて、私が出来ることをやっていきたいと思います。この研修での出会いを大切にして、将来に役立てたいと思います。最後に「一度出逢えばみな兄弟」「イチャリバチョーデー」

野里ファミリー

参加者アンケート(派遣前)

Q1.移民について調べられましたか？(第2回目の事前研修)

・移民についてまだ調べられてないので、しっかりやっていかないといけない。
・もう少し調べた事を伝えたかったが、口頭でまとめるのが難しく、全く内容を詰め込められなかった。他の人の発表を聞いていると身近に移民との関わりを持つ人がいるようで、少しうらやましく思った。
・南風原からボリビアへ移民した人たちのことを少し伝えられました。
・今回時間がなかった＋勘違いを言い訳に発表が出来なかったので反省しています。
・移民についてネットで調べて発表する事が出来た。またメンバーの話も聞いて移民について知らなかった事も多く、改めて移民することの大変さを知った。
・他のメンバーの意見や感想をたくさん聞き、メンバーひとりひとりさまざまな考えや想いがあり、とても素晴らしいと思いました。
・移民について少しは調べたけど、あまり調べられなかった。もっと調べて色んなことを知りたい。
・1番難しかったのは、国頭からボリビア等に移住した人がいるか探す時に資料がなかったこと。調べた量が少なかった。
・私は、移民の事について調べることができなくて、みなさんの発表を聞いて学んだ事もあったので、ちゃんと調べて発表できるようにする。

Q2.第2回目の事前研修の感想

・あらゆる人からウチナーンチュの心のすごさを教えてもらった気がした。あとはやるべきことをやる。
・漠然とした期待・不安が形になった研修だった。ボリビアでのエイサーを見ることが出来るという期待と、県人会で気まずい思いをするのではないかという不安の二つです。この不安を少しでも軽減できるように、沖縄の様々なことをもっと詳しく学んでいきたい。
・もっとみんなが仲良くなれたら良いと思うので、みんなとコミュニケーションをとることを大切にしたい。
・同じウチナーンチュでも、ボリビアから見る沖縄と、沖縄から見るボリビアが少し異なっているから全てがプラス思考に進化していけるように努力が必要と感じました。
・本日の研修を通して、感じた事は、沖縄の人が沖縄の伝統芸能文化をできないという事に対して、このままではいけないと思った。将来の沖縄を担う私たちがこのような状況だと沖縄に未来はないと思った。私たちがこのような現状を変えていきたいです。
・今日の研修を通して感じたことは、まだまだ課題がたくさんあるということです。まだまだ全体的に勉強不足なので、しっかり力がつけられるよう頑張っていきたいです。
・踊ったり、衣装を着てみたりと急にびっくりしたけど、楽しかったです。やはりまだまだ慣れていなくて緊張しているので、早くリラックスして参加できるようになりたいです。プレゼンテーションに向けて準備してたくさん勉強したいです。
・ボリビアや、移民、南米など、自分はまだまだ知らない事が多いなと痛感した。ボリビアへ行くまでにはもっと知識を増やしたいです。
・今日の研修では、伝えないといけない沖縄の事について改めて考えさせられました。沖縄県の代表として、ちゃんと準備していきたいと思いました。

Q3.最後の事前研修の感想

・最後の事前研修ということで「もうすぐボリビアに生けるんだ」という期待がとても高まった。つい最近まで感じていた「ないちゃーであることへの不安」はきょうの研修でかなりなくなった。この期待を維持したまま、出発当日を迎えたいと思った。
・前回とは違ってみんな課題をしっかりやってきて、ボリビアへ行くという気持ちがみえてきた。出発までにはしっかり準備して、楽しい旅にしたい。
・ボリビアについて詳しく知ることが出来て勉強になりました。現地ではまず"つながる"ことを大事にしたいと思いました。
・ボリビアのダンスがダイナミックで表現力豊かで楽しかった。発表では、準備不足で満足いくプレゼンが出来なかったから、本番までには仕上げたい。
・今日はプレゼンテーションもあって、とても充実した研修でした。7日に出発なので、それまでにしっかりと準備していきたいです。
・沢山ボリビアについて知れたので良かったです。移民以外のことも学べて(色々な民族の事等)ダンスとかも見て楽しかったです。あと本番までにパワーポイント等、色々なことを完璧にしておきたいです。
・今回は第三回の最後の事前研修会ということで出発も近くなり、気持ちが高まってきました。
「沖縄から伝えたいこと」の練習はあまり上手くいかず、しっかりと発表出来なかったのでもっと練習をし、ボリビアではしっかり相手に気持ちが伝わる発表が出来ればいいなと思いました。・コロニアオキナワのことだけでなく、ボリビアの違う地域のことを知って、オルロのカーニバルで踊るダンスなど面白いなと思いました。色んな話を聞いて、今まで以上にボリビアへ行きたいという気持ちが強くなりました。

参加者アンケート(派遣後)

Q1.滞在中、海外のウチナーンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？

・移民歴史資料館で 1 世の方々からお話を聞くことができた。
・海外でも沖縄の食文化(そば、てびちなど)が根付いていることに驚いた。
・歴史や生活は事前にも少し学んでいました、実際にその地に行くことでリアリティーを持って学ぶことができました。ウチナーネットワーク、"いちゃりばちょーでー"の本当の意味を身を持って体験しました。
・出来た。
・ボリビアへ行って、より一層、移民のことについて知ることが出来た。
・ウチナーグチやオキナワの歴史を学ぶことが出来ました。
・私のフォストファミリーが 1 世だったこともあり 1 世の方々との交流が盛んに行えたと思います。当時の苦労話や、生活するために行ったこと等沢山聞くことが出来ました。
・移民の事について、知らなかった事を知れたので良かった。青年会の行動力は、本当に凄いなと思いました。

Q2.派遣先の地域の方々との交流はできましたか？

(どのくらい/どんな形で)
・とても
・毎日／交流会・おしゃべり・ホームスティ
・毎日
・普通／食事会、歓迎会

※印象に残っている交流について

・カラオケ大会／スポーツ交流会
・豊年祭でエイサーを踊る子供たちとの交流／釣り堀で青年たちと交流
・ホームスティ／交流会／イベント／星や川など自然を見せに連れていってくれた
・釣り堀で釣り／豊年祭／シュラスコ／歓迎会
・WYUA 主催の歓迎交流会／豊年祭
・青年の方々との交流／小中学生との交流／1 世の方々との交流
・青年たちとの未来会議／島唄カラオケ大会／歓迎会／豊年祭など (津波璃乃亜)
・WYUA 主催スポーツ大会／JICA ワークショップ／コロニアオキナワ青年未来会議／学校訪問
・WYUA 主催の歓迎会／豊年祭／釣り大会／サンタクルス観光

Q3.あなたが期待したことはこのホームスティツアーでどのくらい達成されましたか？

・テーマ:積極性、達成感:100%
・テーマ:いろいろな人と交流する
(スペイン語を使いつつ)、達成感 80%
・テーマ:縁・出会いを大事にする、達成感 100%
・テーマ:現地のウチナーンチュと交流を深める、
達成感 100%
・テーマ:沖縄の文化を伝える、達成感:90%
・テーマ:さまざまな交流をする、達成感 100%
・テーマ:ホームスティ、国際交流など、達成感 100%
・テーマ:人との交流、達成感 80%
・テーマ:海外のウチナーネットワークを深める、
達成感 70%

Q4.出発前に不安に思っていたこと、行ってみても不安が大きくなったり問題につながったりしましたか？

・いいえ(全員)

Q5.事前オリエンテーションで、何が役に立ちましたか？(複数回答可)

語学研修	4
保護者説明会	1
沖縄を伝える学習	4
沖縄移民の歴史	7
参加者同志のコミュニケーション	5
派遣先からの具体的な情報(留学生より)	6

Q6.その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか？

・ボリビアの気候(冬と言いつつ、冬ではなかった)
・学習よりは皆(メンバー)との交流の場がもっと欲しかった！
・もっとスペイン語を学んで、少し会話できるようになりたかったです。
・自分の出身地名護についてとか、沖縄についてもっと知って行くべきだった
・沖縄の方言とボリビアの気候！夏に行ったけど、向こうは冬で寒いと思っていたけどそうでもなかった
・方言

Q7.研修後、この経験を活かして何をしますか？具体的に書いて下さい。

・出会った人たちとさらにキズナを深める。
・地元・鶴見に帰ったとき、そこに住むうちなーんちゅの人たちにボリビアで会ったことを伝えたい。
・2016年の世界うちなーんちゅ大会の際、積極的に受け入れやサポートに関わります。
・2 年後卒業してボリビアへ語学留学をしに行き、そこでコロニオキナワメンバーとも交流したいです。
・将来できれば派遣教師でボリビアへ行き、沖縄の伝統芸能を伝える。
・周りに情報を与える。現地と関わりを持てることをしたいです。
・将来、派遣教師としてボリビアへ行きたいから、たくさんの事をいろんな人に伝えたりしていきたい。
・移民について知らない人が多いから学校とかで友達に移民やコロニアオキナワについて話す!!
・SNS で、コロニアオキナワのみんなとサンタクルスのみんなと連絡を取り続けて、周りの友達にコロニアがあるということを伝えていく。方言、スペイン語を勉強する。

Q8.その他感想、要望・意見などありましたら、書いて下さい。

・本当にステキな研修でした!!
・また行きたい！次は個人的に！
・またボリビアで会った方々に再会できたらいいなと思いました。
・この研修に参加出来て本当に良かったと思ったし、この研修はこれからも続けていくべきだと思う。
・移民、海外のうちなんちゅについて知る良いきっかけとなりました。楽しかったし、とてもためになりました。

報告会

上間ファミリー

山城ファミリー＆元派遣教師

編集後記

平成26年度の海邦養秀ネットワーク構築事業は、南米ボリビア多民族国コロニア・オキナワ及びサンタクルス市であった。

40時間近く飛行機を乗り継ぎ、やっとのことで到着したサンタクルス空港には、“めんそーれ！”の横断幕と、温かい笑顔が歓迎してくれた。内心ほっとし、遠く南米のボリビアでウチナーンチュに出会えたのがすごく嬉しく思えた。

今年度の参加者9名（県内高校生5名、大学生4名）は、『もうひとつのオキナワ』と呼ばれるコロニア・オキナワやサンタクルス市でのホームステイ体験や、県系人が経営する企業、農場への視察、JICAの国際協力の現場訪問や、滞在中に開催された「コロニア・オキナワ入植60周年記念式 典」への参加をとおして、移民一世の皆さんはじめ、多くのウチナーンチュとすばらしい交流ができたと感じている。

約 60 年前に、沖縄から海外へ飛び出し、疫病や水害など重なる苦労を乗り越えて、今では「小麦の首都」と呼ばれるほどの大農業地帯を築き上げた移民一世の先輩方の海外雄飛・開拓精神に触れ、世界的規模で事業を展開する現世代二世、三世の皆さんを知ることが出来たのは貴重な体験であった。

参加者達にとっても、ボリビアの自然や各プログラム、ホストファミリーとの生活は、新鮮な体験ばかりで、短い期間ではあったが深い交流ができたのではないかと思う。

特に、現地の同世代の青年とは、毎日の移動を含め、全てのプログラムを一緒に取組んでもらえたことはとてもよかった。滞在中、本当に多くの時間を彼ら若者同士は一緒に過ごしていたので、それぞれが友情をはぐくむ事ができたと思う。

また、「世界若者ウチナーンチュ連合会」主催の「コロニア・オキナワ未来会議」では、たくさんのボリビアと沖縄の青年が、お互い国籍は違えども同じウチナーンチュとして課題を共有し主体的に未来を創造していこうという姿勢は素晴らしいと思う。

今回生まれた、沖縄とボリビアの若者同士の友情は、将来にわたって互いに大事にしていってほしいと思う。

最後に、私も現地でホームステイをしており、ホストファミリーの上間 ヒサコ（母さん）、ケンジ（パパさん）、エリカ（ママさん）、ケンくん、エイミちゃん、メイリちゃんに感謝。サンタクルスの平良タカオ（お父さん）、アキコ（お母さん）、輝幸さん、さゆりさん、ひろゆきくんに感謝。2週間のハードスケジュールを無事に終えることが出来たのも我がファミリーのおかげでした。

また遊びに行ったら受け入れて下さいね！！

広報交流課　下地　裕

今年度の海邦養秀ネットワーク構築事業はボリビアのコロニアオキナワへ行って来ました。ボリビアは今年戦後 1954 年に始まった第一次移民から、60 周年を迎えた記念すべき年です。

コロニア・オキナワは 1998 年に行政区として認められ、沖縄県とは地球の反対側にあるもう一つのオキナワなのです。コロニア・オキナワでは、ホームステイをしながら移民について学びました。

まず、移民歴史資料館で当時の写真や沖縄から持って来た物などを見ながら1世の方々のお話を聞く機会がありました。最初に開拓した土地では後にうるま病と呼ばれる原因不明の病気で尊い 15 名の命を失いました。次に移動した土地も様々な問題から住めなくなり、現在の移住地へと移動しました。今考えると最初の移住地よりも現在の移住地にたどり着いたのは最終的には良い事だった様に思えるのですが、どうやってそれまでの苦労を乗り越えてきたのかという質問に対して、次に続く人たちの為に第一次移民として選ばれてきた自分達には使命があり「なてぃんなからん」という気持ちで頑張ってきた、というお話を聞きました。苦労に耐える沖縄の人の心の強さと団結力に胸が熱くなりました。また自分達の生活も苦しい中で、子ども達には教育が必要だとすぐに学校を作った事は素晴らしいと思います。

現在の移住地の様子を知る為、農業組合、農場、養豚場、牧場等の施設訪問もしました。リオ・グランデ河の氾濫による水害や、様々な苦労を乗り越え、今では「麦の首都」と言われるまでに発展しています。どこまでも広がる麦畑は、私の大好きな風景でした。

そして毎年行われている豊年祭にも参加することが出来ました。ボリビア各地の踊りや青年会の太鼓演舞、児童生徒による楽器演奏や合唱等、様々な演目がありました。最後に琉球國祭り太鼓による素晴らしい演舞があり、その後の花火はとても感動的でした。

何より 60 周年記念式 典に参加出来たのは貴重な体験でした。今の移住地の発展は 1 世の方々の頑張りがなければなかったものです。1 世の方々の苦労を知り広く伝えていくこと、沖縄とオキナワ、ふたつの沖縄の絆をより強くする為に何をすればいいのかは、これからの私たちの課題だと感じました。

この素晴らしいプログラムは、現地の沖縄県人会と日ボ協会、青年会の連携のおかげで実現しました。特に青年会にはずっとお世話をしてい頂いたおかげで、若者同士の結びつきが強くなりました。今後も連絡を取り合い、ネットワークを強化していくことでしょう。実際に参加者のうち2人が、既に再びボリビアを訪れ新たなボリビアを体験していることを大変嬉しく思います。

最後に、このプログラムに関わって頂いた全ての関係者に心から感謝すると共に、地球の裏側にある「もうひとつのオキナワ」と「沖縄」がずっと繋がっていくことを願っています。

眞壁　由香（沖縄 NGO センター）.